

定期作況報告

平成12年11月
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1 . 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温は平年より低く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年並で、平均気温はやや低かった。下旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温はやや低く、平均気温は極めて低かった。降水量は上旬が平年よりやや多く、中旬が極めて多く、下旬が多かった（月合計157.5mmで平年の371％）。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬がやや少なく、下旬が極めて少なかった（月合計125.5時間で平年の89％）。

5月：上旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は高く、平均気温は極めて高かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温は高く、平均気温は平年並であった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温はいずれも平年より極めて高かった。降水量は上旬が平年より極めて少なく、中旬と下旬が平年並であった（月合計33.0mmで平年の51％）。日照時間は上旬が平年よりやや多く、中旬と下旬が平年並であった（月合計150.3時間で平年の109％）。

6月：上旬の最高気温は平年より極めて低く、最低気温は平年並で、平均気温は低かった。中旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温は高かった。下旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は上旬が平年並で、中旬がやや少なく、下旬が平年並であった（月合計57.0mmで平年の102％）。日照時間は上旬が平年より極めて少なく、中旬が極めて多く、下旬がやや多かった（月合計137.7時間で平年の118％）。

7月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温はやや高かった。中旬の最高気温は平年に比べやや高く、最低気温、平均気温は高かった。下旬の最高気温は平年より高く、最低気温、平均気温は極めて高かった。降水量は上旬が平年並で、中旬がやや多く、下旬がやや少なかった（月合計112.5mmで平年の113％）。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬と下旬が平年並であった（月合計98.0時間で平年の87％）。

8月：上旬の最高気温、最低気温、平均気温とも平年より極めて高かった。中旬の最高気温は平年より極めて高く、最低気温はやや低く、平均気温はやや高かった。下旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温、平均気温は高かった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬が少なく、下旬がやや少なかった（月合計53.0mmで平年の41％）。日照時間は上旬が平年並で、中旬が平年より極めて多く、下旬がやや少なかった（月合計159.1時間で平年の130％）。

9月：上旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温は平年に比べやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。下旬の最高気温、最低気温、平均気温は平年並であった。降水量は上旬が平年より極めて多く、中旬と下旬が平年並であった（月合計186.0mmで平年の125％）。日照時間は上旬が平年よりやや少なく、中旬が平年並で、下旬がやや多かった（月合計108.3時間で平年の92％）。

10月：上旬の最高気温は平年よりやや高く、最低気温は極めて高く、平均気温は高かった。中旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温、平均気温は極めて低かった。下旬の最高気温は平年よりやや低く、最低気温と平均気温は低かった。降水量は上旬が平年より

多く、中旬と下旬が少なかった（月合計39.0mmで平年の61％）。日照時間は上旬が平年並で、中旬が平年より極めて多く、下旬が平年並であった（月合計173.6時間で平年の122％）。

11月：上旬の最高気温は平年並で、最低気温はやや低く、平均気温は平年並であった。中旬の最高気温、最低気温、平均気温は極めて低かった。降水量は上旬が平年よりやや少なく、中旬がやや多かった。日照時間は上旬、中旬とも平年並であった。

農耕期間中（5月～9月）の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

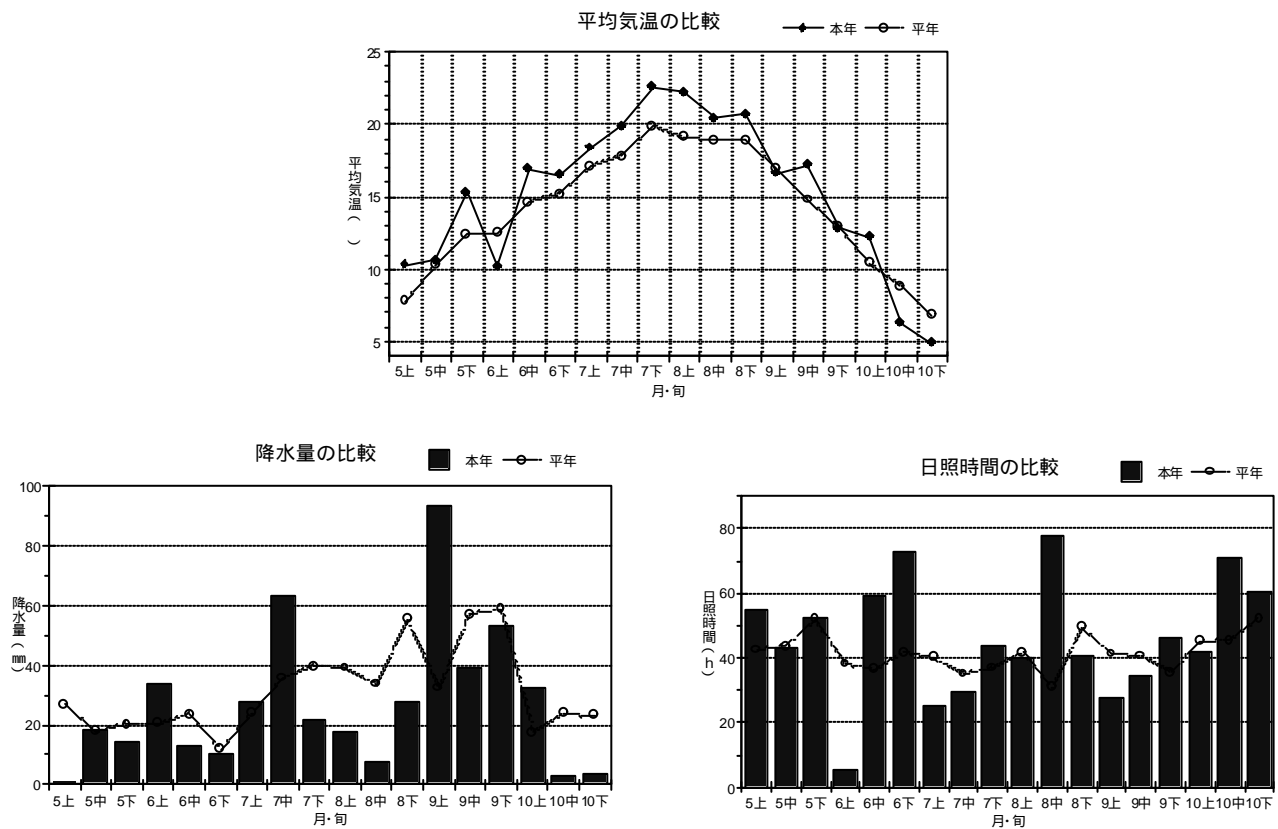
気温：6月が平年並で、他の期間は高めに経過し、とくに、7月、8月が高かった。この期間の平均気温の積算は2562.9で、平年より225.2多かった。

降水量：9月がやや多く、他の期間は平年並か少なく経過し、とくに8月が少なかった。この期間の降水量の積算は441.5mmで、平年より55.2mm少なかった。

日照時間：8月がやや多く、他の期間は平年並に経過した。この期間の日照時間の積算は653.4時間で、平年より46.9時間多かった。

以上のことから、本年の農耕期間中の気象は、気温が高く、降水量と日照時間が平年並であった。

2．気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3 . 気象表

項目 月・旬	平均気温 ()			最高気温 ()			最低気温 ()			降水量 (mm)			日照時間 (h)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
4 上	2.1	2.3	0.2	7.1	7.3	0.2	-4.9	-2.7	2.2	30.0	10.7	19.3	69.1	46.4	22.7
	2.1	3.4	1.3	5.7	8.9	3.2	-1.4	-1.8	0.4	66.5	11.0	55.5	29.8	44.9	15.1
	3.7	7.3	3.6	7.8	13.4	5.6	0.3	1.0	0.7	61.0	20.7	40.3	26.6	50.0	23.4
5 上	10.3	7.8	2.5	16.7	13.5	3.2	4.3	2.1	2.2	0.5	26.8	26.3	54.8	42.5	12.3
	10.6	10.3	0.3	15.2	16.3	1.1	6.2	4.4	1.8	18.5	18.0	0.5	43.4	43.6	0.2
	15.3	12.4	2.9	21.5	18.4	3.1	9.4	6.2	3.2	14.0	20.2	6.2	52.1	52.0	0.1
6 上	10.2	12.5	2.3	13.6	17.8	4.2	7.0	7.5	0.5	33.5	20.5	13.0	5.3	38.2	32.9
	16.9	14.6	2.3	23.6	19.9	3.7	10.4	10.0	0.4	13.0	23.5	10.5	59.5	36.6	22.9
	16.5	15.2	1.3	23.2	20.6	2.6	10.5	10.2	0.3	10.5	11.9	1.4	72.9	41.6	31.3
7 上	18.4	17.1	1.3	23.2	22.3	0.9	14.6	12.1	2.5	28.0	24.0	4.0	25.0	40.2	15.2
	19.9	17.8	2.1	24.1	22.6	1.5	15.6	13.4	2.2	63.0	35.8	27.2	29.4	35.2	5.8
	22.6	19.9	2.7	26.8	24.5	2.3	18.6	15.8	2.8	21.5	39.7	18.2	43.6	37.0	6.6
8 上	22.2	19.1	3.1	27.0	23.9	3.1	18.4	14.6	3.8	17.5	39.1	21.6	40.3	41.7	1.4
	20.4	18.9	1.5	26.5	23.0	3.5	14.7	15.3	0.6	7.5	33.8	26.3	78.0	30.9	47.1
	20.7	18.9	1.8	25.4	23.9	1.5	16.5	14.4	2.1	28.0	55.3	27.3	40.8	49.6	8.8
9 上	16.6	16.9	0.3	20.5	21.7	1.2	12.9	12.5	0.4	93.5	32.4	61.1	27.9	41.3	13.4
	17.2	14.8	2.4	21.0	19.8	1.2	13.8	10.1	3.7	39.0	57.0	18.0	34.2	40.6	6.4
	12.8	12.9	0.1	17.3	17.7	0.4	8.3	8.4	0.1	53.5	58.9	5.4	46.2	35.5	10.7
10 上	12.2	10.4	1.8	17.1	16.1	1.0	8.2	4.9	3.3	32.5	17.4	15.1	42.0	45.2	3.2
	6.3	8.8	2.5	13.6	14.7	1.1	-0.4	3.3	3.7	3.0	23.8	20.8	71.1	45.4	25.7
	4.9	6.8	1.9	11.5	12.6	1.1	-0.8	1.6	2.4	3.5	23.2	19.7	60.5	52.1	8.4
11 上	3.5	4.0	0.5	9.8	9.6	0.2	-2.5	-1.5	1.0	3.5	14.7	11.2	49.9	46.8	3.1
	-1.9	1.4	3.3	3.0	6.5	3.5	-7.1	-3.6	3.5	22.0	14.0	8.0	42.7	39.9	2.8

注) 観測値は置戸町境野のアメダスによる。平年値は前10か年の平均値である。

季節表

項目 年次	前年 根雪始 月日	融雪期 月日	根雪 期間 日数	耕鋤 始 月日	降雪 終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜 期間 日数	降雪 始 月日	農耕期間の積算(5～9月)		
										平均気温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (h)
本年	12. 6	4.18	135	5. 5	4.28	5.10	10.16	158	10.18	2562.9	441.5	653.4
平年	12. 5	4. 8	125	4.26	5. 1	5.23	10.10	139	11. 3	2337.7	496.7	606.5
比較	1	10	10	9	3	13	6	19	16	225.2	55.2	46.9

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

4 . 当場の作況

1) 秋播小麦

[平成11年度播種] 作況：良

事由：播種は平年並みの9月13日に行った。出芽期はほぼ平年並で良好であった。秋期の生育も概ね良好であった。根雪始めは平年より1日遅い12月6日で、冬期の気温は平年より低く、融雪期は4月18日で平年より10日遅かった。積雪期間は135日で平年の125日より10日間長かったが雪腐病の被害はほとんどなかった。融雪の遅れと4月中旬以降の低温により、融雪後の生育はやや遅れたが、茎数は平年をかなり上回っていた。5月下旬以降は気温はほぼ高めに推移し、春先の低温による生育の遅れはやや回復し、出穂期はほぼ2日遅れであった。その後も気温は高く、適度な降雨もあったため徒長気味の生育となり、稈長は平年よりやや高かった。秋まき小麦の登熟期間である6月中旬から7月下旬の平均気温は平年より高めに推移し、日照時間は7月上旬が平年よりやや少なかったものの概ね平年並かやや長く、登熟は良好であった。成熟期は平年並か平年より1～3日早かった。倒伏は強稈性が弱い品種以外はほとんどなく、7月下旬は降水量も少なく雨による被害も受けなかった。穂数は品種によりやや傾向が異なり、全体ではほぼ平年並であったが「タクネコムギ」では平年より多く、「チホクコムギ」では平年よりやや多かった。穂長は平年並かやや短かった。千粒重は「タクネコムギ」を除き平年より大きく、子実重は平年を上回った。

以上のことから本年の作況は良である。

秋播小麦の生育期節と収量

品種名 項目	年	タクネコムギ			ホクシン			チホクコムギ			ホロシリコムギ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(平成11年月日)		9.13	9.14	0	9.13	9.13	0	9.13	9.13	0	9.13	9.13	0
出芽期(平成11年月日)		9.22	9.21	1	9.22	9.21	1	9.22	9.21	1	9.22	9.21	1
出穂期(平成12年月日)		6.8	6.7	1	6.13	6.11	2	6.18	6.15	3	6.17	6.15	2
成熟期(平成12年月日)		7.22	7.23	1	7.24	7.24	0	7.26	7.29	3	7.26	7.30	4
草丈(cm)	平成11年11月20日	19.1	20.2	1.1	16.2	23.0	6.8	19.9	21.9	2.0	20.5	21.3	0.8
	平成12年5月20日	43.0	44.6	1.6	38.7	43.1	4.4	39.9	41.7	1.8	43.0	45.7	2.7
	平成12年6月20日	110.5	103.4	7.1	94.6	95.5	0.9	91.6	90.5	1.1	101.8	98.7	3.1
茎数(本/m ²)	平成11年11月20日	1844	1873	29	1514	1751	237	1989	1823	166	1996	1622	374
	平成12年5月20日	1826	1370	456	1797	1394	443	1990	1480	510	1905	1604	301
	平成12年6月20日	1010	878	132	959	761	98	870	779	91	814	785	28
稈長(cm)	成熟期	101	96	5	90	88	2	97	93	4	101	100	1
穂長(cm)	成熟期	7.6	17.6	0	8.1	8.4	0.3	6.9	7.1	0.2	8.1	8.4	0.3
穂数(本/m ²)	成熟期	925	848	77	723	764	41	729	705	24	613	646	33
子実重(kg/10a)		528	473	55	628	538	90	630	498	132	574	517	57
同上平年比(%)		112	100	-	117	100	-	127	100	-	110	100	-
リットル重(g)		796	792	4	810	800	10	788	765	23	801	774	27
千粒重(g)		36.8	37.8	1.0	40.5	35.8	4.7	38.4	34.6	3.8	45.7	40.7	5.0
品質(検査等級)		1	1	0	1	2	1	1	2	1	1	2	1

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成6、8年、「ホロシリコムギ」、「チホクコムギ」は平成5、8年を除く5か年の平均。ただし、「ホクシン」は平成8、10年を除く3か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/m²、その他の品種の播種量は340粒/m²。

[平成12年度播種] 作況：やや不良

事由：播種は降雨のため「タクネコムギ」、「チホクコムギ」、「ホロシリコムギ」で平年より4日遅い9月17日に、「ホクシン」は平年より6日遅い9月19日に行った。出芽期は平年より3日～4日遅く、播種後も降雨が続いたため出芽がやや悪かった。気温は10月中旬が低温であったものの、そ

の他の期間は平年並か高く、草丈は「ホクシン」を除き平年を上回っている。茎数は平年より少なく、「ホクシン」ではかなり少ない。ただし、主茎葉数は概ね5～6枚を確保している。

以上のことから目下の作況はやや不良である。

品種名	播種期(月・日)			出芽期(月・日)			草丈(cm)			茎数(本/㎡)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
タクネコムギ	9.17	9.13	4	9.24	9.21	3	22.7	21.0	1.7	1759	1942	183
ホクシン	9.19	9.13	6	9.26	9.22	4	18.3	21.3	3.0	1206	1692	486
チホクコムギ	9.17	9.13	4	9.24	9.21	3	23.0	21.9	1.1	1605	1823	218
ホロシリコムギ	9.17	9.13	4	9.24	9.21	3	23.7	21.3	2.4	1463	1622	159

注) 平年値は前7か年中、「タクネコムギ」は平成6、8年、「ホロシリコムギ」、「チホクコムギ」は平成8、12年を除く5か年の平均。ただし、「ホクシン」は平成8、10年を除く4か年の平均。「ホクシン」の播種量は255粒/㎡、その他の品種の播種量は340粒/㎡。

2) 春播大麦(二条大麦) 作況:不良

事由: 耕種始が平年より遅れたため、播種期は平年より4日遅い5月8日であった。播種後の気温が高かったため、出芽に要した日数は平年より短く、出芽期は平年より1日遅い5月17日であった。出芽後の気温も高かったため、5月20日の草丈は平年よりやや長かった。6月中旬以降の気温は平年より高く、降水量は平年より少なかった。このため、6月20日の草丈はやや短く、一部で葉先の黄化が見られた。また、分けつの無効化が進んだため、茎数は平年より少なく推移した。出穂期は平年並の7月7日であった。稈長は平年より短かった。7月下旬以降は気温が高く、成熟期は平年より2日早い8月3日であった。不稔率が高かったため、1穂当たりの稔実粒数は平年より少なく、穂数も少なかったことから、子実重は平年比66%の低収であった。倒伏の発生が無かったため千粒重は平年よりやや重く、整粒歩合は平年より高かった。

以上のことから本年の作況は不良であった。

二条大麦の生育期節と収量

項目	品種名	りょうふう		
	年・比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5.8	5.4	4
出芽期(月・日)		5.17	5.16	1
出穂期(月・日)		7.7	7.6	1
成熟期(月・日)		8.3	8.5	2
草丈(cm)	5月20日	9.6	7.7	1.9
	6月20日	38.7	44.3	5.6
稈長(cm)	7月20日	83	91	8
茎数(本/㎡)	6月20日	998	1,058	60
穂数(本/㎡)	7月20日	547	625	78
成熟期における	稈長(cm)	83	91	8
	穂長(cm)	6.3	6.3	0.0
	穂数(本/㎡)	547	625	78
	1穂粒数	19.6	21.3	1.7
	不稔率(%)	6.8	1.7	5.1
成熟期の倒伏程度		無	微	-
子実重(kg/a)		26.0	39.1	13.1
同上平年比(%)		66	100	34
リットル重(g)		639	668	29
千粒重(g)		44.4	41.9	2.5
整粒歩合(%)		95.2	89.2	6.0
整粒重(kg/a)		24.8	34.9	10.1
粗蛋白質含量(%)		-	11.6	-

注) 平年値は、前7か年中、平成5、7年を除く5か年平均。蛋白質含量は分析中である。

3) 春播小麦

作況：不良

事由：融雪期は4月18日で平年より10日遅かった。4月29日から30日にかけて20数cmの積雪があり、圃場の乾燥が遅れ、耕鋤始めは平成年より9日遅い5月5日、播種も平年より9日遅い5月7日であった。播種後の平均気温は平年並かやや高く、出芽期は平年より5日遅い、5月17日であった。5月下旬、6月中旬の高温と適度な降雨により生育はやや回復したが6月中旬以降も気温が高く、出穂期は平年より1日早かったが、生育が早まったため全体の生育量は平年より劣り、稈長、穂長、穂数とも平年を下回った。成熟期も4日早く、登熟期間が平年より短くなった。千粒重はほぼ平年並みであったが子実重は平年比88%であった。

以上のことから本年の作況は不良である。

春播小麦の生育期節と収量

品種名		ハルユタカ			品種名		ハルユタカ		
項目	年	本年	平年	比較	項目	年	本年	平年	比較
播種期(月・日)		5.7	4.28	9	稈長(cm)	成熟期	80	89	9
出芽期(月・日)		5.17	5.12	5	穂長(cm)	成熟期	7.8	8.2	0.4
出穂期(月・日)		7.1	7.2	1	穂数(本/m ²)	成熟期	485	508	23
成熟期(月・日)		8.9	8.13	4	子実重(kg/10a)		339	387	48
草丈(cm)	5月20日	5.7	12.0	6.3	同上平年比(%)		88	100	-
	6月20日	56.1	59.9	3.8	リットル重(g)		787	776	11
茎数(本/m ²)	5月20日	329	342	13	千粒重(g)		36.7	37.2	0.5
	6月20日	834	792	42	品質(検査等級)		1	2	1

注) 平年値は前7か年中、平成5、9年を除く5か年の平均。

4) とうもろこし

作況：良

事由：播種期は平年より2日早く、出芽期は平年より5日早かった。6月中旬以降は気温が平年より高く推移したために生育が順調で、抽糸期は両品種とも平年より7日早まった。

収穫期は平年より13日早い9月14日であった。雌穂の熟度は両品種とも黄熟中期で、登熟は平年より進んだ。乾物茎葉重は「ワセホマレ」が平年よりやや少なく「ダイハイゲン」が平年並であったが、乾物雌穂重は両品種とも平年より多かった。その結果、乾物総重の平年比は「ワセホマレ」が108%、「ダイハイゲン」が107%、推定TDN収量の平年比は「ワセホマレ」が110%、「ダイハイゲン」が108%で、両品種とも平年より多収であった。

以上のことから、本年の作況は良である。

とうもろこしの生育期節と収量

項 目	ワセホマレ			ダイハイゲン		
	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)	5.19	5.21	2	5.19	5.21	2
出芽期 (月・日)	5.28	6.2	5	5.28	6.2	5
抽雄期 (月・日)	7.23	7.29	6	7.25	7.30	5
抽糸期 (月・日)	7.30	8.6	7	7.31	8.7	7
収穫期 (月・日)	9.14	9.27	13	9.14	9.27	13
収穫期の熟度	黄熟中期	黄熟初期	-	黄熟中期	黄熟初期	-
草丈 (cm)						
6月20日	28.3	22.7	5.6	28.8	24.5	4.3
7月20日	161.5	116.9	44.6	165.5	123.8	41.7
8月20日	244	242	2	246	247	1
稈長 (cm)						
9月20日	201	202	1	209	209	0
葉数 (枚)						
6月20日	3.4	4.0	0.6	3.4	4.0	0.6
7月20日	11.0	10.7	0.3	11.6	10.9	0.7
8月20日	12.0	13.6	1.6	13.0	14.0	1.0
生総重 (kg/10a)	5068	4234	834	5756	4721	1035
乾物茎葉重 (kg/10a)	534	548	14	582	578	4
乾物雌穂重 (kg/10a)	721	611	110	772	692	80
乾物総重 (kg/10a)	1255	1159	96	1354	1270	84
推定TDN収量 (kg/10a)	924	838	86	995	925	70
同上平年比 (%)	110	100	10	108	100	8
総体の乾物率 (%)	24.8	27.7	2.9	23.5	27.2	3.7
不稔個体割合 (%)	0.0	1.7	1.7	0.0	3.3	3.3

注) 平年値は前7か年中、平成5年と平成9年を除く5か年の平均。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850

5) 大豆

作況：良

事由：5月24日に播種を行ったが、播種直後に試験場周辺を中心に局地的な豪雨があり、試験圃場全体が冠水したため、試験の継続を断念した。このため新たに試験圃を設置して、平年より9日遅い5月31日に再度播種を行った。播種後の6月上旬は平年より低温、中旬は高温に推移したため、出芽期までの日数は平年並に要した。6月下旬～7月3半旬は平均気温が平年より高く、適度な降雨に恵まれたため生育は順調に進み、播種の大幅な遅れによる生育の遅延は回復傾向にあった。しかし7月4半旬は低温・多雨に推移したため生育は一時停滞ぎみとなった。7月下旬以降8月下旬までは、降水量が平年より少なかったものの、平均気温は高く、日照時間も平年並以上であったため、生育の遅れは回復し、着莢および莢の伸長は順調であった。その後は9月上旬が多雨であったものの、平均気温は概して平年並～高く経過したため登熟は順調に進み、成熟期は平年と比較して「トヨコマチ」で3日、「キタムスメ」で6日それぞれ早かった。

「キタムスメ」の百粒重は平年よりやや軽かったが、着莢数は両品種とも平年を大きく上回ったため、子実重は平年比125～128%と多収であった。子実の品質は被害粒の発生が少なく、両品種とも良好であった。

以上のことから本年の作況は良であった。

大豆の生育期節と収量

項目	品種名	キタムスメ			トヨコマチ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月・日)		5.31	5.22	9	5.31	5.22	9
出芽期 (月・日)		6.15	6.6	9	6.15	6.6	9
開花始 (月・日)		7.26	7.25	1	7.22	7.23	1
成熟期 (月・日)		10.7	10.13	6	10.2	10.5	3
主茎長 (cm)	6月20日	4.9	6.0	1.1	6.3	7.1	0.8
	7月20日	33.9	37.5	3.6	35.5	36.4	0.9
	8月20日	73.5	77.6	4.1	55.8	57.4	1.6
	9月20日	71.7	77.8	6.1	55.3	58.3	3.0
	成熟期	71.7	76.8	5.1	55.3	57.5	2.2
本葉数	6月20日	0.1	0.5	0.4	0.1	0.5	0.4
	7月20日	5.5	6.0	0.5	5.8	5.9	0.1
主茎節数	8月20日	13.3	13.3	0	11.0	10.9	0.1
	9月20日	13.3	13.3	0	11.0	10.8	0.2
	成熟期	13.3	13.2	0.1	11.0	10.8	0.2
分枝数 (本/株)	7月20日	0.1	0.8	0.7	0.1	1.5	1.4
	8月20日	6.0	5.5	0.5	5.4	4.8	0.6
	9月20日	5.9	5.4	0.5	5.5	4.7	0.8
	成熟期	5.9	5.5	0.4	5.5	4.7	0.8
着莢数 (個/株)	8月20日	90.7	66.6	24.1	75.0	56.1	18.9
	9月20日	77.1	65.7	11.4	67.9	52.7	15.2
	成熟期	77.1	65.3	11.8	67.9	53.2	14.7
子実重 (kg/10a)		366	292	74	340	265	75
同上平年比 (%)		125			128		
百粒重 (g)		28.8	30.5	1.7	33.7	32.5	1.2
屑粒率 (%)		0.7	1.2	0.5	0.5	5.6	5.1
品質 (検査等級)		1	1		1	(2中)	

注) 平年値は前7か年中、平成5年と11年を除く5か年の平均。ただし「トヨコマチ」の品質は平成6年をも除く4か年の平均。

6) 小豆

作況：試験の中止

事由：本年は当初播種を予定していた圃場が前日の豪雨により播種不能となったため、急ぎよ新たな圃場を設定し試験を実施した。この際、十分な土壌条件の検討ができないまま試験を開始したことから、7月下旬頃より圃場全体に微量要素欠乏の症状が認められ、生育は著しく停滞した。従って、本年の生育は気象条件を十分に反映した結果ではないと判断し、8月以降試験を中止した。

小豆の生育期節と収量

項 目	品 種 名	エリモシヨウズ			サホロシヨウズ		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期 (月・日)		5.31	5.23	8	5.31	5.23	8
出芽期 (月・日)		6.18	6.10	8	6.18	6.10	8
開花始 (月・日)			7.27			7.25	
成熟期 (月・日)			9.23			9.16	
主 茎 長 (cm)	6月20日	1.9	3.0	1.1	1.9	3.0	1.1
	7月20日	7.9	10.5	2.6	7.4	9.8	2.4
	8月20日		44.3			37.1	
	9月20日		47.0			37.1	
	成熟期		46.7			37.1	
本葉数	6月20日	0	0.4	0.4	0	0.4	0.4
	7月20日	3.9	4.6	0.7	3.8	4.5	0.7
主 茎 節 数	8月20日		12.6			10.4	
	9月20日		12.8			10.5	
	成熟期		12.9			10.5	
分 枝 数 (本/株)	7月20日	0	0.1	0.1	0	0	0
	8月20日		3.1			3.3	
	9月20日		2.9			3.1	
	成熟期		2.9			3.2	
着 莢 数 (個/株)	8月20日		29.3			35.6	
	9月20日		44.4			44.4	
	成熟期		45.7			45.1	
子実重 (kg/10a)		333			264		
同上平年比 (%)							
百 粒 重 (g)			14.5			15.9	
屑 粒 率 (%)			2.0			3.1	
品質 (検査等級)			2 中			(2下)	

注) 平年値は前7か年中、平成5年と9年を除く5か年の平均。ただし「サホロシヨウズ」の品質は平成10年をも除く4か年の平均

7) 菜豆

作況：平年並

事由：播種を予定していた5月25日の前日に試験場周辺を中心に局地的な豪雨があり、試験圃場全体が冠水したため播種を断念した。このため新たに試験圃を設置して、平年より9日遅い5月31日に播種を行った。播種後の6月上旬は平年より低温であったが適度な土壌水分があり、また中旬は高温に推移したため出芽は一斉に進み、出芽期までに要する日数は平年より2～3日短かった。出芽後の6月下旬～7月3半旬は平均気温が平年より高く、適度な降雨に恵まれたため生育は順調に進み、播種の大幅な遅れによる生育の遅延は回復傾向にあった。このため、7月4半旬は低温・多雨に推移し、生育の一時的な停滞がみられたものの、開花始はいずれとも平年比1日の遅れであった。7月下旬以降8月下旬までは降水量が平年より少なかったが、平均気温は高く、日照時間も平年並以上であったため、生育および莢の伸長・肥大は順調に進み、「大正金時」の成熟期は平年より5日早かった。その後は9月上旬が多雨であったが、平均気温は平年並～高く経過したため、手亡類の登熟は順調で、成熟期は平年より8日早かった。

「大正金時」では着莢数は平年並であったが、百粒重が平年より軽かったため、子実重は平年比91%と低収であった。一方、手亡類では着莢数が平年よりやや多く、百粒重はほぼ平年並であったため、子実重は平年比108～111%と多収であった。屑粒率は「大正金時」では平年より低かったが、手亡類では成熟期前後に降雨が多く、莢表面および内部にかびが蔓延したため、平年よりかなり高かった。このため子実の品質は「大正金時」では平年並であったが、手亡類では平年より劣った。

以上を総合すると本年の作況は平年並であった。

菜豆の生育期節と収量

項 目	大正金時			姫手亡			雪手亡			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月・日)	5.31	5.22	9	5.31	5.22	9	5.31	5.22	9	
出芽期(月・日)	6.16	6.10	6	6.15	6.8	7	6.15	6.8	7	
開花始(月・日)	7.13	7.12	1	7.23	7.22	1	7.23	7.22	1	
成熟期(月・日)	8.31	9.5	5	9.14	9.22	8	9.14	9.22	8	
草丈 (cm)	6月20日	6.5	8.3	1.8	5.0	5.6	0.6	5.0	5.6	0.6
	7月20日	29.5	31.1	1.6	33.4	28.2	5.2	32.9	27.1	5.8
	8月20日	40.7	37.6	3.1	51.4	46.8	4.6	54.1	48.8	5.3
	9月20日	40.6	38.6	2.0	56.6	47.1	9.5	58.7	50.2	8.5
	成熟期	40.6	38.6	2.0	56.6	47.1	9.5	58.7	50.6	8.1
本葉数	6月20日	0.1	0.4	0.3	0.1	0.6	0.5	0.1	0.6	0.5
	7月20日	3.0	3.2	0.2	6.0	6.1	0.1	5.9	6.2	0.3
主茎 節数	8月20日	5.0	5.2	0.2	9.6	9.2	0.4	9.6	9.5	0.1
	9月20日	5.0	5.2	0.2	9.6	9.1	0.5	9.6	9.3	0.3
	成熟期	5.0	5.2	0.2	9.6	9.1	0.5	9.6	9.3	0.3
分枝数 (本/株)	7月20日	2.9	3.3	0.4	4.7	5.6	0.9	4.2	5.3	1.1
	8月20日	3.3	3.8	0.5	6.9	6.7	0.2	8.2	7.1	1.1
	9月20日	2.8	3.4	0.6	7.1	6.4	0.7	6.9	6.6	0.3
	成熟期	2.8	3.4	0.6	7.1	6.4	0.7	6.9	6.5	0.4
着莢数 (個/株)	8月20日	19.3	17.1	2.2	36.7	33.4	3.3	37.8	32.9	4.9
	9月20日	17.4	17.2	0.2	34.3	30.9	3.4	32.8	31.5	1.3
	成熟期	17.4	17.2	0.2	34.3	30.6	3.7	32.8	31.3	1.5
子実重(kg/10a)	231	253	22	390	350	40	399	368	31	
同上平年比(%)	91			111			108			
百粒重(g)	65.0	72.3	7.3	33.9	33.3	0.6	33.3	33.5	0.2	
屑粒率(%)	0.6	1.2	0.6	8.4	1.8	6.6	7.2	1.6	5.6	
品質(検査等級)	2中	2中		4上	2上		3下	2上		

注) 平年値は前8か年中、平成6年と8年および再播した10年を除く5か年の平均。

* 9月20日の「姫手亡」および「雪手亡」の草丈に誤りがありましたので、上記の通り訂正しお詫び致します。

8) ばれいしょ

作況：やや良

事由：植付けは平年より4日早い5月10日に行い、萌芽期は「男爵薯」が平年より3日、「紅丸」は2日早かった。6月上旬の低温と日照不足により萌芽後の生育はやや停滞したが、6月中旬～下旬が高温、多照に経過したため、6月20日の茎長は両品種とも平年を上回り、開花始も平年に比較して「男爵薯」は7日、「紅丸」は6日早かった。開花後も高温傾向が続き、7月下旬～8月下旬は降水量も少なかったため茎の伸長は抑制され、8月20日の茎長は「男爵薯」は平年より16cm、「紅丸」は6cm短かった。枯凋期は両品種とも平年並であった。

高温・少雨のため塊茎の肥大は抑制されたが、9月上旬に多量の降雨があり、その後も降水量は平年並に推移したため、収穫期の上いも重は早生の「男爵薯」は平年比99%と平年並に回復し、晩生の「紅丸」は平年比107%と平年を上回った。高温・少雨とそれに続く多雨により、「紅丸」には伸長型の二次生長が比較的多くみられたが、でん粉価は両品種とも平年より1ポイント以上高く、「紅丸」の収穫期でのでん粉重は平成5年に現在の栽植密度で調査を開始してから最も多収となり、平年比は117%であった。

高温・少雨のため、疫病の発生は少なく、茎長が短かったため倒伏も少なく、軟腐病もほとんどみられなかった。「男爵薯」には大～中いもの約1割に中心空洞が認められた。「紅丸」には約3割の塊茎にごく軽微な褐色心腐が認められたが、特に多いとはいえない。

以上のことから本年の作況はやや良であった。

ばれいしょの生育期節と収量

項目	品種名 年・比較	男爵薯			紅丸		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較
植 付 期 (月・日)		5.10	5.14	4	5.10	5.14	4
萌 芽 期 (月・日)		5.31	6. 3	3	5.30	6. 1	2
開 花 始 (月・日)		6.29	7. 6	7	6.30	7. 6	6
枯 凋 期 (月・日)		9.10	9.10	0	10. 4	10. 4	0
茎 長 (cm)	6月20日	18.3	12.8	5.5	18.1	13.9	4.2
	7月20日	39	54	15	68	78	10
	8月20日	42	58	16	85	91	6
茎 数 (本/株)	6月20日	3.5	3.5	0.0	3.8	3.6	0.2
	7月20日	3.5	3.7	0.2	3.6	4.0	0.4
	8月20日	3.5	3.6	0.1	3.7	4.0	0.3
でん粉価 (%)	8月20日	16.4	14.3	2.1	15.9	14.5	1.4
	9月20日	16.3	14.5	1.8	17.1	16.0	1.1
上 い も 数 (個/株)		10.5	10.7	0.2	13.1	12.8	0.3
上 い も 平均一個重 (g)		102	101	1	115	109	6
上 い も 重 (kg/10a)		4,540	4,589	49	6,217	5,808	409
同 上 平 年 比 (%)		99	100	-	107	100	-
でん粉価 (%)		16.3	14.5	1.8	17.0	15.7	1.3
でん粉重 (kg/10a)		692	617	75	993	851	142
同 上 平 年 比 (%)		112	100	-	117	100	-

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」「紅丸」とも平成6年、9年を除く5か年の平均。

9) てんさい

作況：やや不良

事由：移植栽培の播種はほぼ平年並で、育苗期間中の生育は順調であった。4月下旬の降雪の影響はなく、移植は平年並の5月10日に行い、直播栽培の播種も同日に行った。移植後の天候は順調に推移したため、移植・直播共に初期生育は平年に比べて良好であった。その後も、6月中旬からの高温多照と平年を上回る降雨によって、地上部の生育と根部の肥大は良好に推移した。しかし、9月以降も高温（特に高夜温）傾向が続いたうえに、9月上旬の多雨や10月中下旬の極端な低温のため、根中糖分の上昇は大きく抑制された。収穫は平年どおり10月20日に行った。根重は移植栽培では2品種平均で平年比119%、直播栽培では同111%と平年を大きく上回ったが、根中糖分は移植栽培では2品種平均で平年比82%、直播栽培では同91%と非常に低かった。このため糖量は移植栽培では2品種平均で平年比97%、直播栽培では同101%であった。

以上のことから、本年の作況はやや不良である。

てんさいの生育期節と収量

栽培法 品種名	移 植						直 播			
	モノホマレ			ストーク			モノホマレ			
項目	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期(月・日)	3.27	3.28	1	3.26	3.28	1	5.10	5.11	1	
移植期(月・日)	5.10	5.11	1	5.10	5.11	1	-	-	-	
出芽期(月・日)	-	-	-	-	-	-	5.20	5.23	3	
収穫期(月・日)	10.19	10.20	1	10.19	10.20	1	10.19	10.20	1	
草 丈 (cm)	6月20日	31.9	21.4	10.5	35.8	21.6	14.2	16.4	11.8	4.6
	7月20日	59.1	50.4	8.7	59.4	49.8	9.6	54.3	46.7	7.6
	8月20日	62.1	57.5	4.6	61.7	55.4	6.1	61.5	62.1	0.6
	9月20日	63.0	59.0	4.0	59.5	56.9	2.6	64.3	63.3	1.0
生葉数 (枚)	6月20日	13.1	11.7	1.4	13.0	11.2	1.8	9.0	6.1	2.9
	7月20日	23.3	21.1	2.2	23.4	20.2	3.2	21.6	19.0	2.6
	8月20日	28.5	27.1	1.4	29.4	26.4	3.0	25.9	25.4	0.5
	9月20日	31.3	31.2	0.1	33.0	30.9	2.1	29.8	29.3	0.5
根 周 (cm)	7月20日	22.8	19.0	3.8	26.0	19.7	6.3	17.5	15.2	2.3
	8月20日	29.9	26.8	3.1	33.8	28.7	5.1	24.3	24.5	0.2
	9月20日	34.8	31.2	3.6	38.6	33.7	4.9	29.7	28.8	0.9
茎葉重(kg/10a)	4418	4691	273	4113	4491	378	4474	4698	224	
根 重(kg/10a)	6652	5653	999	6269	5223	1046	5491	4941	550	
平年比(%)	118	100	18	120	100	19	111	100	11	
根中糖分(%)	15.09	18.39	3.30	15.04	18.54	3.30	15.52	17.11	3.30	
平年比(%)	82	100	18	81	100	19	91	100	9	
糖 量(kg/10a)	1004	1037	33	943	965	22	852	843	9	
平年比(%)	97	100	3	98	100	2	101	100	1	

注) 平年値は前7か年中、移植栽培は平成7年、10年を除く5か年の平均、直播栽培は平成5年、10年を除く5か年の平均。

10) 牧 草

作況：不良

事由：オーチャードグラス混播及び単播草地の調査結果を第1表に、チモシー混播及び単播草地の調査結果を第2表に示した。萌芽期は、シロクローバが平年より3日早かった他は平年より3~9日遅かった。冬枯れ程度は無~少であった。混播草地の春の被度は、全体では平年より高かったが、チモシー混播草地のマメ科被度は平年より低かった。各草種の出穂始・出穂期並びに開花始は、チモシー単播草地で平年並だった他は平年より3~8日早かった。草丈は、混播草地のオーチャードグラスの2・

3番草・単播草地のオーチャードグラスの2番草及びシロクローバの2番草で平年より低かった他は、平年並か平年より高かった。マメ科率は、オーチャードグラス草地では平年並か平年より低かったが、チモシー草地では平年より高かった。乾物収量は、オーチャードグラス混播草地の1番草・チモシー混播草地の3番草及び同単播草地の2・3番草で平年より多かった他は平年並か平年より少なかった。オーチャードグラス混播及び単播草地の年間合計乾物収量の平年比は、それぞれ95%、86%であった。またチモシー混播及び単播草地の年間合計乾物収量の平年比は、それぞれ97%、96%であった。本年のオーチャードグラス混播・単播両草地及びチモシー混播・単播両草地を合計した年間合計乾物収量の平年比は94%であった(第3表)。

以上のことから本年の作況は不良である。

第1表 オーチャードグラス混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播				単播			
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
オーチャードグラス萌芽期(月・日)	-	5.2	4.27	5	-	5.7	4.28	9	-
シロクローバ萌芽期(月・日)	-	4.21	4.24	3	-	-	-	-	-
冬枯れ程度	5.18	微	-	-	-	少	-	-	-
全体被度(%)	5.18	96	92	4	-	-	-	-	-
マメ科被度(%)	5.18	49	49	0	-	-	-	-	-
オーチャードグラス出穂始(月・日)	-	5.26	6.2	7	-	5.29	6.2	4	-
オーチャードグラス出穂期(月・日)	-	5.29	6.6	8	-	6.2	6.7	5	-
オーチャードグラス草丈(cm)		5.18	40	34	6	35	35	0	-
1番草		6.5	91	79	12	76	73	3	-
2番草		7.18	88	93	5	62	80	18	-
3番草		8.23	72	81	9	67	61	6	-
4番草		10.5	56	53	3	53	49	4	-
シロクローバ草丈(cm)		5.18	21	18	3	-	-	-	-
1番草		6.5	44	41	3	-	-	-	-
2番草		7.18	50	54	4	-	-	-	-
3番草		8.23	43	43	0	-	-	-	-
4番草		10.5	39	30	9	-	-	-	-
マメ科率(%)		6.5	24.0	25.5	1.5	-	-	-	-
2番草		7.18	30.1	30.6	0.5	-	-	-	-
3番草		8.23	16.1	17.9	1.8	-	-	-	-
4番草		10.5	19.0	20.3	1.3	-	-	-	-
乾物率(%)		6.5	13.9	14.1	0.2	-	18.6	17.6	1.0
2番草		7.18	13.9	15.9	2.0	-	19.4	22.8	3.4
3番草		8.23	19.8	19.3	0.5	-	23.4	21.0	2.4
4番草		10.5	16.0	20.8	4.8	-	18.1	22.0	3.9
生草収量(kg/a)		6.5	2284	2043	241	112	861	1120	259
2番草		7.18	1674	1758	84	95	731	817	86
3番草		8.23	999	1155	156	86	568	678	110
4番草		10.5	749	576	173	130	542	456	86
合計		-	5706	5532	174	103	2702	3071	369
乾物収量(kg/a)		6.5	313	290	23	108	159	193	34
2番草		7.18	231	272	41	85	141	183	42
3番草		8.23	197	224	27	88	132	144	12
4番草		10.5	119	118	1	101	98	99	1
合計		-	860	905	45	95	530	618	88

第2表 チモシー混播・単播草地の生育期節と収量

項目・番草	調査日	混播				単播			
		本年	平年	比較	平年比	本年	平年	比較	平年比
チモシー萌芽期 (月・日)	-	4.27	4.23	4	-	5.2	4.26	6	-
アカクローバ萌芽期 (月・日)	-	4.24	4.21	3	-	-	-	-	-
冬枯れ程度	5.18	無	-	-	-	微	-	-	-
全体被度 (%)	5.18	99	91	8	-	-	-	-	-
マメ科被度 (%)	5.18	48	56	8	-	-	-	-	-
チモシー出穂始 (月・日)	-	6.15	6.18	3	-	6.17	6.17	0	-
チモシー出穂期 (月・日)	-	6.18	6.22	4	-	6.22	6.22	0	-
アカクローバ開花始 (月・日)	-	6.22	6.25	3	-	-	-	-	-
チモシー草丈 (cm)	5.18	41	32	9	-	34	36	2	-
1番草	6.19	96	100	4	-	96	95	1	-
2番草	8.5	83	85	2	-	84	62	22	-
3番草	10.5	66	55	11	-	49	45	4	-
アカクローバ草丈 (cm)	5.18	23	20	3	-	-	-	-	-
1番草	6.19	86	75	11	-	-	-	-	-
2番草	8.5	72	75	3	-	-	-	-	-
3番草	10.5	56	45	11	-	-	-	-	-
マメ科率 (%)	6.19	60.3	52.4	7.9	-	-	-	-	-
2番草	8.5	89.3	63.0	26.3	-	-	-	-	-
3番草	10.5	86.5	65.8	20.7	-	-	-	-	-
乾物率 (%)	6.19	15.0	15.5	0.5	-	21.4	22.3	0.9	-
2番草	8.5	12.9	17.8	4.9	-	19.0	26.0	7.0	-
3番草	10.5	14.7	19.3	4.6	-	23.5	28.3	4.8	-
生草収量 (kg/a)	6.19	3689	3857	168	96	1481	1909	428	78
2番草	8.5	2691	2164	527	124	924	496	428	186
3番草	10.5	891	843	48	106	520	348	172	149
合計	-	7271	6864	407	106	2925	2753	172	106
乾物収量 (kg/a)	6.19	553	589	36	94	317	419	102	76
2番草	8.5	346	359	13	96	176	125	51	141
3番草	10.5	174	161	13	108	122	96	26	127
合計	-	1073	1110	37	97	615	640	25	96

第3表 本年の全草地の合計乾物収量 (kg/10a) 調査結果

草種	草地	本年	平年	比較	対平年
					比 (%)
オーチャードグラス	混播	860	905	45	95
	単播	530	618	88	86
チモシー	混播	1073	1110	37	97
	単播	615	640	25	96
合計		3078	3273	195	94

- 注) 1. 各草種の品種はオーチャードグラスが「キタミドリ」、シロクローバが「カリフォルニアラジノ」、チモシーが「ノサップ」、アカクローバが「サッポロ」である。
2. 冬枯れ程度は、無：0%、微：1~20%、少：21~40%、中：41~60%、多：61~80%、甚：81~100%枯死をそれぞれ示す。また混播草地の冬枯れ程度はイネ科・マメ科両者の枯死割合である。
3. 混播草地の乾物率は、イネ科・マメ科を併せた全体についてのものである。
4. 平年値は平成5年から平成11年までの前7か年のうち、混播草地は平成9年と平成10年を、他の3草地は平成7年と平成11年を除く5年間の平均である。

11) たまねぎ

作況：不良

事由：播種後の気温が平年より低く経過し、特に4月中・下旬の最高気温が平年より3～4も低かったため、生育は遅れ、移植時の苗は草丈・葉数・葉鞘径とも平年をやや下回った。4月中・下旬の降雪とその後の低温で圃場の乾燥は遅れたが、5月上旬に好天が続いたため、移植は平年並みの5月12日に行うことができた。

6月上旬には、低温・寡照により生育はやや遅れた。しかし、6月上旬の降水と、中旬の高温・多照により、6月中下旬に生育が急速に進んだ。7～8月は昨年同様高温で推移し、肥大期・倒伏期は大幅に早まった。倒伏後の高温干ばつやそれに伴うネギアザミウマの多発により、枯葉期は平年より2週間以上早まり、収穫は9月7日に終了した。

規格内収量は平年を大きく下回り、最近8年間（「スーパー北もみじ」は6年間）で最低ないし2番目に低かった。収穫物はM球中心で変形球が多く、規格内率は低かった。障害球では、乾腐病及び肌腐れ症状の占める割合が高かった。また、8月上旬に根切りを行った「改良オホーツク1号」には、約1%の日焼け球の発生がみられた。

以上のことから本年の作況は不良である。

たまねぎの生育期節と収量

項目	品種名 年・比較	スーパー北もみじ			北もみじ			改良オホーツク1号		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
播種期(月・日)		3.13	3.9	4	3.13	3.10	3	3.13	3.9	4
出芽期(月・日)		3.29	3.23	6	3.28	3.23	5	3.27	3.21	6
移植期(月・日)		5.16	5.17	1	5.16	5.17	1	5.16	5.17	1
球肥大期(月・日)		7.31	8.2	2	7.27	8.2	6	7.16	7.24	8
倒伏期(月・日)		8.16	8.24	8	8.11	8.21	10	8.4	8.13	9
枯葉期(月・日)		8.19	9.5	17	8.17	9.5	19	8.15	9.2	18
収穫期(月・日)		9.7	9.25	18	9.7	9.23	16	9.7	9.26	19
草丈 (cm)	5月20日	22.4	25.9	3.5	22.8	27.6	4.8	25.4	28.5	3.1
	6月20日	27.4	28.3	0.9	27.7	24.7	3.0	32.7	31.6	1.1
	7月20日	71.2	77.7	6.5	69.4	81.2	11.8	65.1	72.3	7.2
生葉数 (枚)	5月20日	2.7	3.3	0.6	2.5	3.1	0.6	2.7	3.3	0.6
	6月20日	5.8	4.3	1.5	6.0	4.5	1.5	6.2	4.7	1.5
	7月20日	9.1	9.2	0.1	8.5	9.1	0.6	8.7	9.5	0.8
葉鞘径 (mm)	5月20日	3.3	4.0	0.7	3.1	3.9	0.8	3.4	3.9	0.5
	6月20日	6.6	7.5	0.9	7.1	7.0	0.1	7.6	8.5	0.9
	7月20日	16.5	17.7	1.2	15.3	17.6	2.3	15.9	18.0	2.1
葉身生重 (g)	7月20日	75.4	84.8	9.4	64.1	62.5	1.6	66.3	88.1	21.8
球径 (mm)	7月20日	25.3	24.1	1.2	23.5	26.4	2.9	33.7	36.3	2.6
	8月20日	69.3	67.7	1.6	64.4	63.8	0.6	66.1	73.1	7.0
葉身乾物率(%)	8月20日	14.6	9.0	5.6	15.5	8.8	6.7	-	8.3	-
総収量(kg/a)		405	538	133	412	515	103	461	547	86
規格内収量(kg/a)		328	508	180	358	477	119	366	454	88
同上平年比(%)		65	100	-	75	100	-	81	100	-
規格内率 (%)		81	94	13	87	93	6	79	83	4
平均一球重(g)		136	199	63	135	175	40	151	199	48

注) 平年値は、「スーパー北もみじ」が平成7～11年、「北もみじ」が平成6、8～11年、「改良オホーツク1号」が平成4、7～9、11年のそれぞれ5か年の平均。8月20日現在の葉身乾物率は、すでに根切りを終えていた「改良オホーツク1号」については計測していない。総収量、規格内収量、規格内率、平均一球重は9月18日の収量調査の数値。

付表 各作物の耕種概要(1)

作物名	一区面積 m ²	反復	前作物	畦幅 cm	株間 cm	一株 本数	播種粒数	播種量	株数
							粒/m ²	kg/10a	株/10a
1.秋播小麦	6.0	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340(255)	-	-
2.二条大麦	7.2	4	菜豆	30.0	条播	-	340	-	-
3.春播小麦	7.2	4	緑肥大豆	30.0	条播	-	340	-	-
4.とうもろこし	11.2	3	緑肥えん麦	66.0	25.0	1	-	-	6,060
5.大豆	9.6	3	緑肥とうもろこし	60.0	20.0	2	-	-	8,333
6.小豆	9.6	3	緑肥とうもろこし	60.0	20.0	2	-	-	8,333
7.菜豆	9.6	3	緑肥とうもろこし	60.0	20.0	2	-	-	8,333
8.ばれいしょ	25.9	2	とうもろこし	72.0	30.0	1	-	-	4,630
9.てん菜	100	3	緑肥とうもろこし	60.0	23.8	1	-	-	7,003
10.牧草									
OG・WC混播草地	12.5	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	OG:0.9 WC:0.4	-
TY・RC混播草地	12.5	4	緑肥えん麦	散播	-	-	-	TY:1.0 RC:0.4	-
OG単播草地	6.0	4	緑肥えん麦	60.0	条播	-	-	1.0	-
TY単播草地	6.0	4	緑肥えん麦	60.0	条播	-	-	1.0	-
11.たまねぎ	18.0	2	たまねぎ	30.0	10.5	1	-	-	3,175

注) 秋播小麦の播種粒数欄の()内は「ホクシン」の値を示す。

付表 各作物の耕種概要(2)

作物名	施肥量 (kg/10a)					備考		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥			
1.秋播小麦	9.0	14.4	9.6	4.0	3,000	炭カル:150		
2.二条大麦	4.0	16.2	9.4	3.4				
3.春播小麦	10.0	18.0	12.0	5.0				
4.とうもろこし	14.0	22.0	12.0	4.0				
5.大豆	1.8	20.0	7.8	3.0				
6.小豆	4.0	20.0	11.2	4.0				
7.菜豆	4.0	16.0	9.3	3.3				
8.ばれいしょ	8.0	20.0	14.0	5.0				
9.てん菜	15.0	21.3	13.8	5.0				
10.牧草								
OG・WC混播草地	6.0	12.0	14.6	2.5			造成時	炭カル:200 ダブリン:50
TY・RC混播草地	6.0	12.0	14.0	2.5	同上			
OG単播草地	16.5	15.0	16.5	2.3	同上			
TY単播草地	14.5	15.0	14.5	2.3	同上			
11.たまねぎ	15.0	50.0	15.0	5.3		炭カル:160		

注) OGはオーチャードグラス、WCはシロクローバ、TYはチモシー、RCはアカクローバを示す。